



TITLE:

ニホンザルの食物選択と採食競合に関する研究(VI 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

森, 明雄; 加納, 隆至; 大澤, 秀行; 松村, 秀一

CITATION:

森, 明雄 ...[et al]. ニホンザルの食物選択と採食競合に関する研究(VI 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 2002, 32: 118-119

ISSUE DATE:

2002-08-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165695>

RIGHT:

サルに取り込まれる環境化学物質の地域内収支の研究
井口泰泉（横浜市立大・理）

ビスフェノール A のサルにおける体内動態
川島誠一（東京都臨床総研・分子制御）

サル脳発達過程の神経細胞死および生存におよぼす環境化学物質の影響

矢野一行（埼玉医大・進学課程）

サルにおけるフタル酸エステルの代謝機構の研究

（平成 12 年度）

川嶋洋一・工藤なをみ（城西大・薬）

霊長類におけるフッ素化脂肪酸の排出経路と長期残留性の研究

村橋 毅（日本自動車研・エンジン環境部）

サルの生活環境におけるエストロジェン様物質の研究
矢野一行（埼玉医大・進学課程）

サルにおけるフタル酸エステルの体内動態の研究
川島誠一・楠畑かおり（東京都臨床総研・分子制御）
細胞を用いた環境物質に対するサルの耐性の研究
三輪倫子（酪農学園大・獣医衛生化）

サルにおけるビスフェノール A の解毒代謝の研究
尾崎康彦・鈴森伸宏・青山和史（名古屋大・医）
子宮内膜症における SLPI の関与とそれに対する環境ホルモンの影響

（平成 13 年度）

成松鎮雄（岡山大・薬）

光学活性化学物質の立体選択的代謝反応における分子機構

矢野一行（埼玉医大・進学課程）・川島誠一・楠畑かおり
（東京都臨床医・総研）

サルにおけるフタル酸エステルの体内攪乱の合同研究
川嶋洋一・工藤なをみ（城西大・薬）

霊長類におけるフッ素化脂肪酸の識別と蓄積性に関する研究

村橋 毅（日本自動車研・エンジン環境部）

サルの生活周辺におけるエストロジェン様物質の季節変化の研究

森 千里（千葉大・医）

内分泌攪乱化学物質の母子間移行に関するサルを用いた研究

小嶋仲夫（名城大・薬）

生体内代謝を経て発現する環境化学物質の内分泌攪乱作用

（文責：浅岡一雄）

比較による霊長類の解剖学的研究

（実施年度：平成 11～13 年度）

（推進者：茂原信生・毛利俊雄）

本計画研究は、研究所所蔵の液浸標本がひろく有効に利用されるようにと意図し、あえて非限定的な標題をかかげた。したがって、研究会を行って全体的な検討を加えるような性質のものではない。採用された研究題目は多いとは言えず、本来の意図が十分に実現されたとはいえない。しかし、実施された研究は、それぞれに意義があるもので、十分な成果がえられたと考えている。

本計画研究でおこなわれた研究の題目と研究者は以下のとおりである。

（平成 11 年度）

山中淳之（京大・理）

霊長類における大腿骨近位部の構造力学的解析
岡田成賛・諏訪文彦・竹村明道・太田義邦（大阪大・歯）
霊長類舌乳頭の比較解剖的観察

（平成 12 年度）

山中淳之（京大・理）

霊長類における大腿骨の内部構造と力学的環境の関係
樋口 桂（東京医歯大・医）
霊長類上肢筋および末梢神経の走行に関する比較解剖学的検討

諏訪文彦・竹村明道・戸田伊紀・池 宏海（大阪大・歯）

霊長類舌乳頭の微細形態の比較解剖

（平成 13 年度）

荒川高光・時田幸之輔（神戸大・医）

霊長類足底部の筋・骨格系の観察
加賀谷美幸（京大・理）

鎖骨・肩峰・烏口突起の形態比較
樋口 桂（東京医歯大・医）

霊長類の上肢筋および末梢神経の走行に関する比較解剖学的検討

（文責：茂原信生）

ニホンザルの食物選択と採食競合に関する研究

（実施年度：平成 11～12 年度）

（推進者：森明雄・加納隆至・大澤秀行・松村秀一）

ニホンザルの食物選択には、個体の栄養学的要求、食物の利用可能度、個体間・群間の競合などが影響する。この問題について採食戦略と生息環境や社会構造との関

連、採食レパートリーや技術の伝搬、実験室での選択実験や栄養分析など多様な側面から研究することを目的とした。

この課題は3年計画ではあったが、実際に応募された研究は、平成11年度2件、平成12年度2件であった。平成13年度は、応募がなくこの計画課題は成立しなかった。実行されたテーマは、食物選択が母から子にどのように伝達されるのかというメカニズムの研究、食物選択がサルが土を喰うという行動とどのように関係しているのかという研究、テレメーターを用いて大小二つの群れの行動域の広さとテリトリアリティーを調べる研究が行われた。平成11年7月8日には、「ニホンザルの食物選択と採食競合」という題で共同利用研究会を開いた。食物選択のメカニズムや採食戦略に関する最新の成果が報告された。ただ、食物選択のメカニズムの研究はかなり緻密な論理と研究のアイデアを要するためか、実際の応募が少なかったことは悔やまれる。

(平成11年度)

上野有理 (京都大)

ニホンザルの新生児における採食行動の発達

Wakibara, James, V. (京都大)

The adaptive significance of geophagy in food-enhanced free-ranging Japanese macaques at Arashiyama, Japan

(平成12年度)

上野有理 (京都大)

ニホンザルにおける採食行動の発達

揚妻直樹 (北海道大)

白神山地山麓に生息するニホンザルの遊動：個体レベルの遊動パターンの解明

(文責：森明雄)

野生ニホンザル地域個体群の動態と保護管理

(実施年度：平成11年～13年度)

(推進者：渡邊邦夫・室山泰之・
杉浦秀樹・後藤俊二・鈴木晃)

本研究課題は、近年日本各地で深刻な社会問題となっている野生ニホンザルの実状を把握し、かつその保護管理のための具体的な方策を考えることを目的として計画された。屋久島から青森まで、幅広くニホンザルの分布域をカバーした研究が進められたが、内容も生息分布の基礎調査から人為による攪乱の影響、猿害と自然環境との関連、被害対策とそれによる群れの行動変化など、非常に多岐にわたっている。本研究課題と関連して「野生

ニホンザル地域個体群の管理手法」という共同利用研究会が平成12年度と13年度に開催されたが、現在日本各県で進められている野生鳥獣保護管理計画の見直しに係わっている研究者が多数参加しており、本課題研究もそれと密接な関連をもったものとして遂行された。ただし野生ニホンザルの保護管理問題は単に自然科学の方法論の中におさまるものではなく、その意味で現在日本社会から要求されている課題の大きさに比すと隔靴搔痒のごとき感が無きにしもあらずだったのはやむを得ないことなのかもしれない。今後この課題はより専門性をもった保護管理策を模索するものになるであろうが、一定地域における長期継続観察が非常に重要な役割を果たす場合が多く、その二つの側面をあわせもった研究が主流になるものと思われる。本研究課題の成果は、すでにいくつかの和文報告書や著書の中に発表されており、また今後そうした発表が続いてくれることを期待している。

(平成11年度)

渡辺義雄 (美作女子大)・林勝治 (広島県大)

中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査

赤座久明 (富山県立雄峰高校大沢野分校)

黒部川流域に生息するニホンザル個体群の動態 (ダム建設に伴う誘導域の変動)

今井一郎 (弘前大・人文)

白神山地暗門川流域のニホンザルの保全に関する基礎調査

西邨顕達・高木理代 (同志社大)

南山城地域におけるニホンザルの保全生態学的研究

(平成12年度)

渡辺義雄 (美作女子大)・林勝治 (広島県大)

中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査

福田史夫 (共立薬大)

丹沢東北山塊におけるニホンザルの生息と人間活動の影響

赤座久明 (富山県立雄峰高校大沢野分校)・加藤満 (愛知県立旭野高校)

黒部川流域に生息するニホンザル個体群の動態 (ダム建設に伴う誘導域の変動)

好広真一 (龍谷大)・大竹勝 (犬山市、愛知県)

中高度域にすむヤクシマザルの食性と人口学的資料の収集

Hill David (サセックス大)

屋久島における野生ニホンザルの猿害群の春・秋期